特定非営利活動法人A SEED JAPAN　第10回通常総会議事録

１．開催日時　2023年6月24日（土）　14時00分～16時15分
２．開催場所　事務所およびオンライン（Zoom利用）
３．出席状況　正会員総数　74名　有効数　40名（うち出席　7名（※書面表決済み）、 委任者　20名、書面表決者　20名）
以下、敬称略
出席役員：濵田恒太朗、大坂紫、大村哲史、鈴嶋克太、三本裕子
欠席役員：矢口拓也
出席正会員：鈴木真悠子（会場参加）、小長井亨（オンライン参加）
マンスリーサポーター（オンライン参加）：富田一

４．議決権総数　40個　有効議決数　40個（うち出席7個（※書面表決済み）、委任20個、書面表決　20個）
定刻、司会より、議長として濵田恒太朗を指名することの提案があり、これを諮ったところ全員異議なく承認した。その後、定足数の確認を行った。有効出席数及び有効議決権数について確認をし、直ちに議案の審議に入った。

５．議　事
第１号議案　議決事項１：2022年度事業報告
【議決】
◆承認40個（うち出席7個（※書面表決済み）、委任20個、書面表決20個）、反対0個、棄権0個
事務局および各プロジェクト・チーム担当理事より2022年度事業報告について説明を行った。

【担当者からの補足説明】
■事務局報告
鈴嶋：
2022年度は有給スタッフとして、自分が事務局スタッフに加わり、2名体制で運営した。総務部分は当時の事務局スタッフである小川が担当し、事務所移転を円滑に行うことが出来た。自分は広報や助成金申請、オリエンテーション、メンバー募集等を担当した。学生メンバーを数名獲得でき、大学のボランティアセンターにも定期的に発信を行った。オリエンテーションは10名を対象に実施、そのうち6名がミーティングを見学し、そのうち４名が新規会員として積極的にプロジェクトに関わっている。
大学のボランティアセンターは、14大学に情報を届けることができた。メールニュースのサービスを利用し、会員やイベント参加者にその時々の活動報告を行った。全体として、大きく活動を推進できた1年となった。

■エコ貯金ラボ
大村：
この3月に理事田川が退任し、エコ貯金ラボは独立した。同チームのメンバーでもあった自分から、田川に代わって報告をさせていただく。まず、本プロジェクトとASJの過去のプロジェクトである「エコ貯金プロジェクト」との大きな違いとして、エコ貯金プロジェクトは市民だけでなく金融機関への提言活動に重きが置かれていたのに対し、エコ貯金ラボは広く市民の行動変容やそれを通じた社会的金融文化の醸成を重んじた活動であったことが挙げられる。ついては、制作したWebサイト『Eco Life Guide』（https://ecolifeguide.jp/）やSNS等で、預金や投資など広く「お金」に関わる情報を「社会性」という観点から発信した。このほか、田川が明治学院大学の授業やエコノミクス甲子園にて講演を行い、学生から様々な意見をもらった。今後はASJからは離れるものの、先ほど紹介したWebサイトなどの活動は継続することから、それをASJとしても応援するとともに、適宜連携を図っていきたい。

■ESGウォッチプロジェクト：
鈴嶋：
内部勉強会を昨年度の後半に実施し、理解を深めた。勉強会に向けては、インフォメーションシートを作成し、ESG投資の理解を深めることができた。また、ESGウォッチ宣言の賛同者募集は昨年中にはできなかったが、たたき台を作成し、ブラッシュアップ中である。当初実施予定ではなかったが、学生や若手社会人を対象としたESGウォッシュの意識調査を実施した。特設サイトは開設できなかったが、作成の準備段階である。勉強会を3回実施したが、それが今につながっていると思う。メンバー内でESGウォッシュについて知識を深めることができた。

■ハブ30
大坂：
国際会議への参画を目指したウォッチ（情報収集・整理・候補の検討）は今後の戦略が見通せず実施に至らなかった。A　SEED　DAYの記録作成は完成・配布までは至らなかった。OGOBツアーもまだコロナ禍であったことから実現できずに終わった。若者の活動にとってサポート資源となるOGOBネットワークとしては、エコ就職カフェを2回実施し、岸田ほたる氏、小林邦彦氏をゲストに実施し、参加者は少なかったがメンバーのエンパワーメントの機会となった。今年度はプロジェクトの形としては実施せずに、記録作成は事務局として進めていく予定。

■生きる働く
濵田：
ゲストとしてOGOBを呼び、小川と2名で対談を実施した。環境問題だけでなく、生きることや働くことをテーマとし、新しい層にアプローチしたいと考えた。収録を4名分（OBの江口健介氏、長島遼大氏に加えて、現理事の鈴嶋、大村）実施したが、配信までは作業が追い付いていない。配信によりASJのオリエンテーション参加者を増やしたい。今年度はプロジェクトの形はとらず、配信まで作業を進めたいと考えている。

第２号議案　議決事項２：2022年度決算

【議決】

◆承認40個（うち出席7個（※書面表決済み）、委任20個、書面表決20個）、反対0個、棄権0個

会計担当より、2022年度決算について説明を行った。

【質疑応答・意見交換】

議決の前に、議決事項１及び２について、合わせて質疑応答を行った。また、議決事項１・２に関する書面で寄せられた意見についても紹介を行った。

小長井氏：

はじめまして。25年ほど前にASJでお世話になったことがあった。当時は商社に新卒で入って、将来的に国際協力関係の業界に入りたいという意識があり、その経験が欲しいというのが活動のモチベーションだった。国連の明石さんが出るような国際会議に参加できることがあって、非常に良い経験となった。また『種まき』という定期的な発行物に記事を書けたこともあり、活動期間としては1～2年の参加だったが、貴重な経験だったと感謝している。その後は当時思い描いていたNGOへの就職や、国際協力に関わることはかなわなかった。半導体関係の製造業、数社を渡り歩いたり、経営の勉強をしたりして、現在は長野県にいて、プラスチックの技術関係の仕事をしている。

質問として、素朴な疑問だが、世の中の流れ的に移動や対面が非常に難しい状況の中、ASJはそのような状況をどのように克服して活動してきたのか。

濵田：

事務局が2名。1名はコロナ禍からの参加。オンラインが中心でzoomをフル活用して1年ぐらい探りながら活動した。ミーティングを21時から開始することはこれまではなかったが、オンラインだとそのほうが参加しやすいメンバーもいた。しかしながら、対面でないとできないことや対面ならではの充実感もあり、この半年はオンラインを基本としつつも、事務所に集まったり、鎌倉でプチ合宿をしたりしている。人によって認識は違うため、探りながらのところはある。対面も良いというメンバーが多いので、難しさもありつつも徐々に対面を増やしてきている。

大村：

当時のニュースレター『種まき』という懐かしいワードが出てきて嬉しい。会員向けの情報発信について、今はメールマガジンだけになっているが、ミーティング等にご参加いただけると現在の活動をよりご理解いただけると思う。機会があればぜひのぞきに来ていただきたい。

鈴木氏：

動画配信の企画をしていたのは全然知らなかった。

大村：

いろいろなデジタルツールをぜひASJの活動にも取り入れていけたらと思っている。

鈴嶋：
活動報告を1点追加すると、オリエンテーションの応募を10名と報告したが、ホームページへの問い合わせはもっと多数あった。20件程度あったと思うが、参加したのは4名だった。人材の獲得に成功していないともいえる。原因として考えられるのは、ESGウォッチがどんな変化を生み出そうとしている活動なのか、昨年の10・11月まではははっきりしていなかったこと。そのため、募集時にアピールできるポイントが少なかった。今年はすでに10名以上の申し込みがある。打ち出しているポイントを明確にアピールできていると、申し込みがたくさん入る。活動に参加する人を増やしていければよい。

６．報　告

報告事項1：2023年度事業計画

各プロジェクト・チーム担当理事より2023年度事業計画について説明を行った。

【担当者からの補足説明】

■全体方針

濵田：
今年度は必要な管理コストを見極めるために総務部分の有給スタッフを雇用せず、理事の業務にして赤字を圧縮する。活動体の活性化、若者活動会員の増加、財政改善の検討を行う。2022年度事業のうち、「ハブ30」と「生きる働く」は事務局内で実施、「エコ貯金ラボ」は独立となり、「ESGウォッチプロジェクト」のみが活動することとなる。

■ESGウォッチプロジェクト

鈴嶋：
市民一人ひとりがESGの重要性を理解し、金融の知識も持ち、ESGを自分ごとと捉えて公正な投資を実現したい。対市民と対金融セクターに分けて目標を設定した。資産運用会社向けの提言活動や若者がESGウォッシュに関する情報を得るための啓発活動を予定している。具体的には「インフォメーションシート」と「ESGウォッチ宣言」というアクションである。若者に宣言・賛同してもらうことを目指している。意識調査を短くまとめて、「アクションガイド」という啓発冊子を作成し、SNSやウェブサイトで拡散する予定である。キャンペーンを行い、特設サイトを開設する。活動するメンバーも募り育成していきたい。ESG投資、ESGウォッシュに詳しい専門家に話を聞き、インタビュー内容を記事にする。ESGウォッシュのテーマとして、バイオマス発電事業などの「誤った対策」に関すること、金融機関向けの活動として、対話の要請やアクションガイドのプレスリリースなども活用して大々的に発表する。投資信託の運用会社や、個人投資家、特に若い個人投資家に訴えていきたい。

■会員管理方法の検討

大坂：定款に定められている会員の資格喪失条件等を踏まえると、SPRINGとそれ以外の会員について会員資格の期限にずれが生じておりわかりづらい。事務局業務の効率化 および 会員の皆さまのより安定したASJへの参画環境を整えるため、期間を事業年度に合わせた4月から3月末までに統一したい。また現状はSPRINGの引き落としのタイミングが年度の後払いの形になっているため、総会後の7～8月にご連絡し、2月の引き落としから9月中へ

引き落としのタイミングを変更したいと考えている。総会後に理事会にて検討し最終案をまとめ、理事会にて最終的に議決した場合、2023年度から順次適用していく予定である。

報告事項２：2023年度予算（案）報告
2023年度予算（案）について説明を行った。

【質疑応答・意見交換】
報告事項1及び２について、関連意見を紹介するとともに、質疑応答・意見交換を行った。

（報告事項２：全体予算について）
富田：
2023年度は新規スタッフを雇用できる予算を計上しているが、具体的な予定は決まっているのか。募集は大々的に行うのか。

濵田：
現状は特に考えておらず、まだ話し合っていない。

大村：
予算編成は執行前提の予算であるべきだとは思う。理事会として雇用をどうするかスケジュールを考えていかないといけないと再認識した。

小長井氏：
こういう場には初めて参加したが、全体の感想として、いろいろな側面、団体の方針や過去の振り返りとして財務諸表のまとめと分析等、非常にきちんと運営されている印象がある。一般企業の経営会議と同等のクオリティであると感心した。
ひとつ財務的な懸念点がある。若者が集まって活動するのはそれはそれで良いが、組織の継続性を大事に考えたときは、世の中にいる様々なバックグラウンドをもったシニアの方々の助言を受けることも時には必要かもしれない。同様に例えば企業の取締役会などでは、「女性を多くした方がいい」「必ず2人いたほうがいい」などの議論もある。いろんな経験や年齢の方を入れてダイバーシティを進めていくと、どんな困難があっても柔軟に対応できる知恵が生まれるのではないか。東京に行くこともあるので、機会があれば自身も一緒に検討したい。

大村：現在は、子育て世代や学生も参画している。ご指摘のダイバーシティをぜひさらに推進していきたい。

報告事項３：2023年度役員について
2022年度役員（濵田、大坂、大村、鈴嶋、田川、三本、矢口）を紹介した後、理事会で承認された2023年度の役員である濵田恒太朗、濵田恒太朗、大坂紫、大村哲史、鈴嶋克太、三本裕子、矢口拓也より、担当分野および意思の表明を行った。

濵田：
ASJでやったことはすごく大きい。せっかくの場がなくなってしまうのは悲しい。活動が止まった状況もあったが、試行錯誤しながらコロナで落ち着いて活動を考える時間となった。今年はいろいろな分野を新しく検討しており、実際に動き始めている。今年度もよろしくお願いしたい。

大村：
ASJに参画したのは、大学の３・４年生の時。就職先は、当時の「エコ貯金プロジェクト」でも少し関わりのあった金融機関。その後10年以上勤めていたが、今や統合報告書制作やコンサルを行う会社に転職し、本業でもサステナビリティに関わっている。ASJでは幽霊部員のような時期が続いたが、今まで支えてくれていたメンバーや理事を見たことで意識が変わった。一部のOGOBから厳しい話もあったが、頑張ってASJを守ってくれている理事と一緒に何かできないかと、昨年10月から自身も理事就任した。理事の肩書は「人財育成」だが、直近では広く有給スタッフやボランティアのASJへの関わり方を検討する場面が多かったため「人財」だけでもよかったかもしれない。2023年の抱負としては、今度こそ人財「育成」、ボランティアやインターンの方々たちのスキルアップ・キャリアアップを考えていきたい。ASJはいわば第2の創業期ではないか。本総会で説明した３ヵ年方針は今年度が最終年度となる。OGOBをはじめとする人脈や団体の歴史を有効活用しつつも、新しいメンバーとともに３ヵ年方針の「次」を見据え、次世代のASJを作ることを考えていきたい。

三本：
普段は別のNPO法人で働いていて、企業の方やNPOとは違うセクターの方とも会ったり意見交換する機会がある。日本社会の中で民主主義の基盤や市民の参画の意識が薄れつつあると感じている。同調圧力や対話意識の希薄化がある。NPOへの過剰なガバナンス・コンプライアンスへの締め付け傾向が大きくなっていると感じている。ASJは違和感を持ったことに対して発言をして発信していく貴重な場。若者が次世代の視点からやんちゃに活動できる組織であることが大事だと思っている。改めて参加と対話の重要性を実現していく。ASJの目指す公正な社会づくりを進めたい。

鈴嶋：
引き続きESGウォッチプロジェクトを推進する。昨年はなかなか人が集まらず、オリエンを実施しても、チームメンバーとして定着しない、参加に至らない人が多い状況だった。ESGウォッチはマニアックな活動だから、と弱気になっていた部分がある。今年は、現時点で申し込みも参加希望もたくさんある。「メンバーを募集しています！」とちゃんと打ち出せば問い合わせやオリエン申込が来る。
また、「ESGウォッチライター」という枠でも募集しており、メンバー同士で勉強して、お互いの知識を深める人材育成的観点も必要だと思う。過去にASJでお世話になった有識者の方に話を聞く予定。その分、成果も出さないといけない。アウトプットしていかないといけない。身が引き締まる思いでいる。

大坂：
ASJに関わったのはNPOで働いてた職場をやめて会社員に転職した頃。当時は忙しくてだんだんフェードアウトしてしまった。今はこんなにオンラインツールが進み、「オンラインツールがあるから活動できる」という反面、対面の良さも感じている。年齢面を若干気にしていたが、（小長井氏の）ダイバーシティという観点に救われた。ASJには赤字改善を意識して再参加したところがあるので、解散論の声があることや事務負担の懸念があるのも承知しているが、経験も活かして今年度は地球環境基金（助成金）関係を担当したい。ASJのOGOBがめざましい活躍をしている。だからこそASJを終わらせたくはない。

矢口（欠席・代読）：
「本日は、総会に参加できず申し訳ありません。 過日、理事の皆様に説明を受けながら監査をさせていただきました。2023年度もどうぞ、よろしくお願いいたします。」

【参加者からのコメント】
富田：
通常の企業のようにまとまっているとお褒めの言葉をいただいて、うれしく思っている。2023年度も会計担当として参加させていただくので、引き続きよろしくお願いしたい。

鈴木氏：
あまりこのような会員総会を経験したことがないので、いろんな資料を見ながら、これも経験だなと思った。こういう資料を見て勉強していきたい。

濵田：
ちなみに彼女には今月からインターンとしていろいろな業務に携わっていただいており、大活躍中である。

小長井氏：
さきほど言いたいことは言ったので大丈夫である。

大村：
東京にいらっしゃった際はぜひご挨拶・意見交換させていただきたい。

７．議事録署名人の選任
議長より、議事録署名人として、鈴嶋克太と大坂紫の2名を指名したいとの提案があり、これを諮ったところ全員異議なく承認された。

以上の報告を以って、16時15分議長は本総会の閉会を宣した。

以上